

平成28年度「学校における交流及び共同学習を通じた障害者理解(心のバリアフリー)の推進事業」成果報告書

団体名	青森県教育委員会
-----	----------

I 概要

1 事業の概要

平成32年の東京オリンピック・パラリンピック、平成37年の国民体育大会・全国障害者スポーツ大会青森大会を契機として、本県の障害のある児童生徒等と障害のない児童生徒等が、一緒に障害者スポーツを行ったり、障害者アスリートの体験談を聞いたりすることなどをおして、相互理解を推進し、交流及び共同学習の一層の充実を図る。

【事業内容】

ア 連絡協議会の開催

対象校特別支援学校8校、対象小・中学校を管轄する4市町教育委員会及び3教育事務所で組織し、実施内容の共有、実施状況の評価等を行う。

イ 研修会の開催

障害者スポーツのアスリートを招へいし、児童生徒、保護者や地域住民に向けてパラリンピックについて知るための研修会を開催する。

ウ 成果普及に向けた取組

障害者スポーツをとおした交流及び共同学習に係る対象校の取組等をまとめ、リーフレット等を作成・配布する。

エ 先進校視察

対象校の担当者が、障害者アスリートを講師に行われる障害者スポーツに関する研修会に参加するとともに、先進校・地区の取組状況を視察する。

2 事業の成果

各対象校において、障害者アスリートらによる指導のもと、障害者スポーツをとおした交流及び共同学習を実施した。誰もが主体的に参加できる障害者スポーツを一緒に行うことで、順番や作戦を考える、勝利を喜び合うなど、一体感や親近感が生まれ、一層自然な関わりが促進された。

また、事前に実施したアンケートからは、特に高等学校において、障害者や障害者スポーツへの興味・感心が低いことが窺われたが、事後のアンケートからは、障害者への尊敬や対等の関係でありたいという内容や、障害者スポーツの特徴を理解した内容の記載が多く見られるようになるなど、相互理解が促進され、互いに尊重し合える関係が築けたことが窺われた。

障害者スポーツのアスリートによる講演会では、実技体験を交えるなど、理解促進が図られるように工夫をしながら実施した。通常の学校の児童生徒や地域住民からは、障害者スポーツのアスリートの高い技術に触れ、尊敬の気持ちをもつとともに障害者スポーツ並びに障害者全般への関心を高まったという感想が聞かれた。また、特別支援学校の児童生徒からは、夢や希望、目標をもつことの素晴らしさに関する感想が聞かれた。

本事業に係る各校の取組については、成果報告会を開催するとともに「交流及び共同学習(居住地校交流)の手引き」を作成し県内全小・中高等学校に配布するなど、成果普及に努め、障害者スポーツを通じた障害者理解に係る理解啓発を図った。

3 事業の課題とその解決のために必要な取組

各対象校における本事業の課題としては、障害者スポーツを実施するに当たってのルール理解、十分な用具及び指導できる専門家の確保等、交流及び共同学習の準備に係る物理的な環境整備について一層の充実が必要であることが示唆された。

通常の学校の児童生徒へのアンケート結果からは、「障害のある人との関わり方が分からない」という項目があまり変化していない（そう思う：事前60%→事後52%）学校もあり、障害者スポーツを通じた交流及び共同学習のねらいを明確化し、児童生徒の関わりを意図的に仕掛けていく必要があると思われた。

また、障害者（肢体不自由）アスリート講演会の事後アンケート結果からは、マイナスイメージや守るべき弱者としてのイメージが変わったという意見が多数であった一方、「普通の人と変わらない」ということに意識が向くあまり、合理的配慮の提供は必要ないという認識をもっている児童生徒も見受けられた。

これらの解決に向けて、交流及び共同学習全体指導計画及び校内体制の充実、アンケートの分析による障害者理解の指標の検討・整理が必要であると考えられた。